

## おくすり Q&A

### マダニが媒介する感染症 SFTS と治療薬について

- Q. マダニに咬まれたことが原因で発熱や消化管出血などの症状が出ることもあると聞きました。
- A. 重症熱性血小板減少症候群 (severe fever with thrombocytopenia syndrome : SFTS) といい、SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。その他、感染したペットの犬や猫から飼い主へ、治療に携わった医療従事者への感染も報告されています。西日本を中心に春から秋に多い傾向があり、重症になると死亡例も報告されています。
- Q. マダニは屋内にいるダニとは違うのですか？
- A. 衣類や寝具に発生するヒョウヒダニ、小麦粉などに発生するコナダニなどは種類が異なります。マダニ類は、固い外皮に覆われ肉眼でも確認できる比較的大型のダニで、主に森林や草地、また郊外や市街地にも生息しています。普段は動物の血液を吸血して栄養源としています。
- Q. SFTS ウイルスに感染しないようにするにはどうしたらよいですか？
- A. 全てのマダニが SFTS ウイルスを保有しているわけではなく、保有率は地域や季節により 0～数%とされていますが、**咬まれないようにすることが第一です**。野山などマダニが多く生息する場所に行く際は長袖・長ズボン等で皮膚の露出を避ける、明るい色の服を選びマダニの付着を分かりやすくする、ディートを有効成分とした虫よけ剤を活用するなどしましょう。ペットにはペット用のマダニ等駆除剤があります。これらの対策を行っていてもマダニに咬まれていることに気付いたら、無理に取るうとせず医療機関で処置して貰いましょう。
- Q. 感染してしまった場合、今は治療薬があると聞きました。
- A. **アビガンというお薬です**。アビガンは新型・再興型インフルエンザを適応症として日本で開発され、国が要請した場合のみ使用できる抗インフルエンザウイルス薬です。これまで SFTS に対しては合併症に応じた対症療法が主体でしたが、アビガンの SFTS ウイルス増殖抑制効果、いくつかの小規模試験等の結果から有効性が期待され、2024 年 6 月に SFTS に対する世界初の治療薬として承認されました。

SFTS に感染した際、高齢者や合併症のある方では重症化することがあり、病状の悪化が予想される場合にはできるだけ早期のアビガン使用が検討されます。ただし SFTS にアビガンを使用する場合、事前に研修を受けて登録された医師のみが処方可能、妊婦又は妊娠している可能性のある女性は服用できないなどの注意点があります。



以上、SFTS と治療薬についてまとめましたが、できればこういった感染症にはかからないで過ごしたいものです。しっかりマダニ対策をしつつ、ペットとの散歩やアウトドアレジャーを楽しみましょう。

執筆薬剤師 五島 聖子

# わたしの健康とくすり

第355号



## 今月の内容

- ・疾患シリーズ 肥満と肥満症、メタボリックシンドロームについて
- ・ちょっとお耳を…… セントジョーンズワートって？
- ・おくすり Q & A マダニが媒介する感染症 SFTS と治療薬について

2025 年 8 月発行

発行者 八王子薬剤センター 橘 隆二  
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

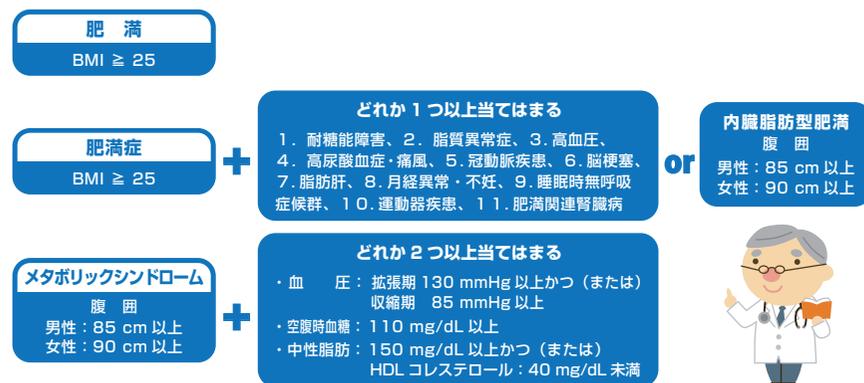
協力 八王子薬剤師会

## 疾患シリーズ

# 肥満と肥満症、メタボリックシンドロームについて

健康診断などで測定する体重や腹囲を気にされている方も多いかと思います。では、よく耳にする肥満、肥満症、メタボリックシンドロームについて、それぞれ違いはご存じでしょうか？

- **肥満**とは脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積された状態です。体格指標(BMI)が25以上のものと定義されています。 $BMI(kg/m^2) = \text{体重}(kg) \div \text{身長}(m) \div \text{身長}(m)$ で表され、男女とも標準とされるBMIは22.0です。BMI25は身長170cmで約72kg、160cmで64kgです。
- **肥満症**とはBMIが25以上の肥満で、高血圧や脂質異常症、2型糖尿病などの肥満による11種の健康障害が1つ以上あるか、健康障害を起こしやすい内臓脂肪蓄積がある状態です。減量による医学的治療の対象となる疾患です。
- **メタボリックシンドローム**は内臓脂肪症候群とも呼ばれます。内臓脂肪蓄積に加え、高血圧、高血糖、脂質代謝異常のうち2つ以上を併せ持つ状態です。心筋梗塞や脳梗塞など命にかかわる動脈硬化性疾患を引き起こすリスクが高くなるため、医学的治療の介入を見据えた疾患概念です。内臓脂肪は腹囲と高い関連性があるため、健康診断では腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上を目安としています。腹囲を基準としているため、BMIが25未満の非肥満でもメタボリックシンドロームと診断されます。



最近、注射の痩せ薬が登場したと注目されていますが、実際は肥満症に対する治療薬であり、安易なダイエット目的での使用は不適切です。適切な要件をクリアし使用する場合は、保険診療として認められます。

保険診療として使用される注射薬は2種類あります。対象となるのは高血圧や脂質異常症、2型糖尿病のいずれかを有する肥満症です。肥満症治療の基本である、治療計画に基づいた食事・運動療法の継続実施が必要です。また施設要件、医師要件も厳密に設定されており、保険診療が可能な病院は限られています。自由診療(自費診療)での取り扱いをうたっている病院・診療所などがありますが、肥満症治療の専門医でないケースや、副作用が出た場合に医薬品副作用被害救済制度の対象とならない可能性があるため注意が必要です。

肥満症、メタボリックシンドロームは、医学的治療が必要な疾患です。少しでも体重やお腹周りが気になるといった方は、早めに専門医へ相談してみたいでしょうか？

執筆薬剤師 加藤 哲教

## ちょっとお耳を……

# セントジョーンズワートって？

お薬手帳にセントジョーンズワートという言葉を見たことはありませんか？今回はそのセントジョーンズワートについて簡単に紹介させていただきます。

## Q. そもそもセントジョーンズワートって？

A. セントジョーンズワート(セイヨウオトギリソウ)は、黄色い花を咲かせる植物で、古くから伝統医学に使用されています。その抽出物は、軽度から中等度のうつ病、強迫性障害、不眠症などといった様々な精神疾患のハーブ療法として使用されています。脳内のセロトニン、 $\gamma$ -アミノ酪酸、ドーパミンなどの神経伝達物質を調節することにより、神経痛、不安、ストレスを軽減すると報告されています。



## Q. 薬物の代謝について

A. 薬物を体内で代謝する際には様々な酵素が関わっています。その中の一部にシトクロム P450 (CYP450) という酵素があります。特定の薬物や成分を摂取することで CYP450 という酵素の阻害または誘導が起こります。代謝阻害作用がある場合は、薬物の代謝が低下し血中薬物濃度が増加するため、作用が増強し副作用発現率が上昇することがあります。一方で代謝誘導が起こると血中濃度が低下するため作用の減弱が起こることがあります。

## Q. セントジョーンズワートはどうしてお薬手帳の注意文に記載されているの？

A. セントジョーンズワートは薬物代謝にかかわるほぼすべての CYP 分子種を誘導することが分かっており、ほかの薬物の効果を減弱する場合があるため、お薬手帳に記載されていることがあります。

## Q. 具体的にどんな薬物の効果を弱めるの？

A. タクロリムス、シクロスポリンといった免疫を抑える薬剤やジゴキシン、イバブラジンなどの一部の心臓病治療薬、シンバスタチンという高コレステロール血症に用いる薬剤などと一緒を使用するとその薬の効果を弱めてしまいます。これらの薬を服用している場合、セントジョーンズワートの摂取には注意が必要になります。

## ▶ 最後に ◀

今回はセントジョーンズワートについて紹介しました。現在使用している薬との飲み合わせなどについて何か気になる点がございましたら、お薬手帳など現在服用している薬が分かるものをご持参のうえお近くの医療機関、薬剤師等にご相談ください。



執筆薬剤師 原島 悠輔